

二中だより

平成22年3月11日発行
 新座市立第二中学校長 森田 和憲
 校訓 まごころ
 学校教育目標 明朗 向上 自主・自立

平成21年度の学校評価結果の状況をお知らせします。学校といたしましては、これを元に次年度の教育活動の改善を図ってまいります。
 ※ 表の見方

- 「自己評価」は、第二中学校職員の自己評価です。
- 「学校関係者評価」は、校長が委嘱した7名の委員(学識経験者、高校教頭、町内会長、青少年育成推進員、幼稚園長、主任児童委員、保護者代表)による評価です。
- 評価は、A(かなり高いレベルでできている。)、B(概ね規準に達している。)、C(規準には達していない。BとCの間の評価。)、D(ほとんどできていない。の)4段階です。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価委員からの主なご意見
1	学校は、学校教育目標達成に向けて、組織的に取り組んでいる。	B	・学校教育目標達成のため、自己目標を設定しているが、行動にうつすという点、組織的に動くという点ではあと一歩である。 ・今後は、各行事の目標の中に、学校教育目標との関連を明記し、常に学校教育目標や校長のミッションとリンクさせるよう心がけていく。	A	・管理職のリーダーシップの下、日頃の授業、体育祭、合唱祭の学校行事等、全教職員が意欲的に取り組んでいることは高く評価できる。 ・学校行事、部活動を通しての素晴らしい成果も出ており、これからも一層の指導をお願いしたい。 ・二中だよりなど連絡文にも教育目標を掲げて、周知している。 ・子どもたちが積極的にチャレンジできている。
2	教職員は、PDCAサイクルのもと学級経営や教科経営・分掌経営にあたっている。	B	・学期毎に自己の経営状況を反省し改善に努めている。会議が多く、仕事量が繁多である。 ・校長のミッションと自己評価シートの連鎖をさらに明確にし、各分掌の達成目標を立てる。また、分掌をスリム化し、責任の所在を明確にする。	A	・日曜授業参観や学校公開で参観すると、熱心に指導している教員が多い。PDCAサイクルにもとづくチェックと、部会等の時間の確保が望まれる。 ・二中だよりなどの内容とアンケート結果から伺われる。
3	学校は、事故やトラブルに対してのマニュアルを作成・掲示し迅速に対応できる体制を整えている。	B	・不審者対応マニュアルを掲示しているが生徒への指導が不徹底な部分がある。 ・マニュアルに表現されていないものについても対応手順を明確にし、教職員全員に周知するとともに、報告・連絡・相談を密に行い、組織的に対応する。	A	・マニュアルは整備され、連絡体制も整っている。不審者への対応も含めて緊急対応の訓練を実施し、周知徹底を図ってほしい。
4	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	B	・掲示教育については委員会活動を活用する改善がなされた。清掃活動は、ポイントを明確にし、しっかりと取り組ませるための改善が必要である。 ・来年度からは、清掃方法を徹底するために、当番の期間を長くする(今年度までは一週間交代が基本)。 ・教師が必ずついて指導を徹底する工夫をする。清掃時に音楽を流すなどして、清掃の雰囲気盛り上げる。	B	・生徒の作品や学習成果が掲示、展示されている。中学校としては、よくできている。さらに清掃活動や環境美化への意識付けを図るようにしたい。 ・場所のわりに、人数が多い。教員がゴミを拾う姿が見られ大事なことだと感じた。校舎内が整頓され、清掃も行き届いていて、学校全体での取組が評価できる。 ・「小学校のときはよい子だったが中学校に行くと…」という声をよく聞く。学習面、生徒指導面等で小学校との連携をお願いしたい。

評価項目「基礎学力の徹底」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価委員からの主なご意見
5	児童生徒は、落ち着いた状況の中で、学習内容を理解しようとしている。	B	・ほとんどのクラスは落ち着いて授業に臨んでいる。個々の生徒に対する指導については、教員の声かけが必要である。 ・全体的に落ち着いた環境であるが、意欲という点では課題がある。 ・研修を通して意欲の部分も高める方策を明確にする。	B	・全校的に生徒は落ち着いて学習に取り組んでいる。学習意欲の低い生徒へのきめ細かい声かけ、指導の工夫が望まれる。 ・学校公開日や合唱祭での生徒の態度はきちんとしていた。 ・授業時間にフラフラ歩きまわる子どももなく、とても落ち着いた授業ができている。 ・保護者の意識が高く、協力的である。
6	児童生徒は、「文章を書く力」を高めたいという教職員の指導の結果、目的や内容に応じて文章を書くことができる。	B	・学校生活の様々な場面で、教職員が歩調をそろえて指導をしていく必要がある。 ・授業の中で意図的に言語活動の場を設定し、きちんとした説明のできる指導、文章でまとめる指導をあらゆる教科で取り組む必要がある。 ・生活記録ノート、学級日誌、各行事における反省等を通じて言語活動や表現活動を高める。	B	・文章を書くにはまず読む力をつけさせたい。さらに国語に限らず全教科、領域を通して書く機会、場面を設定したい。 ・PTA広報等で文章の依頼をすると、文章が単語の羅列になってしまうケースが多い。携帯のメールの影響もあり、短い文でも表現力が不十分である。
7	教職員は、学力向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	・生徒・保護者を対象に授業評価アンケートを行ったり、教員同士の相互評価を行っている。評価結果を具体的な改善に結びつける必要がある。 ・研修を通じて、日常的に取り組む内容を明確に打ち出し、実践していく。	A	・生徒・保護者の授業評価のアンケートからも、教員がわかる授業・学力向上に努めていることが伺える。今後とも研修を深めてほしい。 ・補習授業の取組で各学年、特に、数学の学力の差がないよう指導してほしい。
8	学校は、学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたっている。	B	・指導力に差があることは否めない。バッグの整理整頓、挨拶等最低限守るべきルールを設定しているが徹底しきれていない。 ・研修の学習規律部会から具体的な方策を出し、教室掲示等に反映させるとともに、生徒の委員会の活用を図る。 ・家庭学習については、システム化とともに手引きづくりを行い、三年間を見通し、段階をおった指導体制をつくる。	B	・授業規律が定着しており、学び方の指導がなされている。生徒・保護者のアンケートを見ると、家庭学習の習慣化がなされていない。家庭の協力を得ながら粘り強く指導していく必要がある。 ・宿題や課題(読書や新聞を読む、その感想を一言書くな ど)を出すことも必要なのではないか。 ・わからない子への対応をお願いしたい。
9	学校は、児童生徒が英会話に親しむことができるよう、国際化教育特区としての「英会話の時間」を推進している。	B	・学習意欲の向上を目指すとともに、学習規律の徹底を図る必要がある。 ・学校全体でアピールできるような発表の機会を与えることにより、やる気を引き出す。	B	・学年・個人によって学習意欲に差が見られる。魅力ある授業展開の工夫が望まれる。 ・外国人との交流ができる興味をわくのではないか。 ・小学生の時は楽しそうだったが、中学生になると、思春期特有の恥ずかしさも、活発さに欠ける。

評価項目「規律ある態度」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価委員からの主なご意見
10	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつができる。	B	・年度当初から教職員が重点的に取り組んでいることもあり、昨年度よりポイントはあがった。継続して粘り強く指導していくことが必要である。 ・多くの生徒が挨拶できる。目線を合わせ、しっかりと挨拶をすることができるよう、教師から積極的な声かけをしていく。	B	・個人差は見られるものの、多くの生徒がよく挨拶してくれる。教師から声かけし、家庭、地域でも挨拶できるよう引き続き指導してほしい。 ・家庭、地域、学校で意識的に実践し、習慣化していく必要がある。 ・学校関係者評価委員会で訪れた際、生徒はよく挨拶をしていた。 ・校内ではとても気持ちの良い挨拶ができているが、朝の声かけ等にはあまり反応がない。 ・最近よくなってきている。以前は、声をかけても挨拶しない子が多かったが、改善され、よくなっていることは事実である。
11	児童生徒は、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができる。	C	・昨年に比べ、若干ポイントはあがったが、本校で一番の課題である。 ・授業の中での発表の仕方や言葉の使い方のパターン(ルール)を掲示物等で示す。また各家庭にも働きかける。	B	・正しい言葉遣いを家庭とも連携しながら粘り強く指導する。中学校教員は、教師自身が言語環境であるという認識を持ち、教師自身が手本となるよう努力してほしい。小学校の先生に比べ、中学校の教師は言葉が荒い。 ・「こんにちは」という挨拶も明るい雰囲気だった。 ・返事ができていない生徒が見受けられた。 ・若い先生が多いため、生徒の中には、お兄さん、お姉さん感覚で会話をする生徒がいる。
12	児童生徒は、いじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送っている。	B	・月1回のいじめの調査を定例化したり、早めの対応を心がけたりしていることもあり、昨年度よりポイントはあがった。 ・毎月のいじめの調査を確実にいき、即対応を心がけるとともに、道徳等を中心に、引き続き、生徒の心にうたえていく。	B	・常にアンテナを高くし、毎月のいじめ調査、早期発見、早期対応がなされている。実際的な場面を想定し、人間関係を上手に築けるよう指導の工夫をしてほしい。 ・良いところを声にしてほめてあげてほしい。 ・ソーシャルスキルトレーニングも取り入れて指導してはどうか。
13	教職員は、自ら手本となるなど、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	B	・教職員倫理確立委員会の運営に関しては、大幅な改善が図られた。しかし、更に、教職員の意識を高める必要がある。 ・服装、時間を守る等で、更に教師の姿勢を高めていくことが必要。	B	・先生方は規範意識を高める指導を熱心にやっている。先生の服装、言葉遣いをはじめ、教員自ら手本となるようにしてほしい。 ・西友等のスーパーでジャージのまま飲みくするなど、気になる子どもをよく見かける。学年によって生徒指導が徹底していないように感じる。 ・スポーツを一生懸命にやっていることで、よい影響が出ている。生徒が夢をもてるような指導をしてもらいたい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価委員からの主なご意見
14	児童生徒は、体力向上に向け、体育や部活動・外遊びに意欲的に取り組んでいる。	B	・運動部の実績は目をみはるものがある。新体力テストの取り組みの仕方については改善が必要である。 ・1時間の授業の中に5分間でも新体力テストの項目に触れる機会を増やすなど、体育の授業計画を見直しすることにより、効果をあげる努力をする。体育の見学者を減らすようにする。	A	・先生方の熱心な指導により、部活動が盛んで運動に親しむ生徒が多い。 ・部活動をやっている子とやっていない子の二極化現象がおきている。 ・休み時間の運動は時間的には難しいのではないかと。 ・各大会の活躍については、今後も大いに期待したい。 ・二中だよりなどの内容からうかがわれる。 ・男女別にすれば、水泳の見学が減るのではないかと。
15	学校は、栄養バランスのとれた規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	B	・1年生では、生活習慣に関する学級指導を全クラスで行った。指導計画に位置づけることが課題である。 ・養護教諭・栄養士と連携して、特別活動で、計画的に指導していくとともに、各教科で食に関する指導場面を明確にしていくと同時に、各家庭に働きかける。	A	・朝食、睡眠など生活のリズムを定着させる。また、食に対する生徒・保護者の意識を高めよう必要がある。 ・学校から家庭へも、食の大切さを伝えたり、考える資料等があるとよいのではないかと。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価委員からの主なご意見
16	教職員は、PTA活動や地域活動に協力している。	B	・花の植え替えやパトロール等、多方面で協力を得ている。 ・年々、協力関係が強化されているが、各部の担当をより機能させるとともに、引き継ぎを徹底させる。	B	・職員がPTA活動、ふれあい地域連絡協議会の活動に多く参加している。 ・勤務時間内で地域活動に参加するには無理があると思う。 ・ボランティアの二中周辺の掃除等には是非参加したいと考えている。ふれ協等にも是非知らせてほしい。地域をもっと利用し巻き込んでほしいのではないかと。(野火止めクリーンキャンペーン等)
17	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報提供している。	A	・HPを充実させるだけでなく、新たに携帯用ホームページを新設し、情報提供に努めている。本年度、大きく改善され、最もポイントが高い項目である。 ・担当の後継者育成が課題である。	A	・毎月の学校だより等の通信、教育活動に対する情報発信が家庭、地域に対して為されている。進路指導に関する情報提供が不足している。県公立高校入試の制度変更があつてわかりづらい。 ・進路だよりは、必要なものに関しては、全校生徒に配布していく必要がある。
18	学校は、保護者や地域と連携し不審者対策のパトロールや声かけ運動などを計画を立てて定期的実施している。	B	・ふれあい地域連絡協議会やPTAと連携し、朝の声かけ運動やパトロールを行っている。 ・長期休業中など、校区内を見回りを行う。不審者に遭遇した際の対処方法を指導していく。	B	・朝の声かけ運動や地域のパトロール等、保護者や地域と連携して取り組んでいる。 ・地域の協力を学校だよりを通して発信してほしい。 ・校庭側が通路になっているので、あいさつ声かけが大事である。